



# I N A C H O ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158  
 会長：熊谷 健 副会長：井上 修 幹事：小椋文成 公共イメージ向上委員長：太田明良

	<p>2024-2025 国際ロータリーのテーマ  <b>ロータリーのマジック</b></p>	<p>2024-2025 RI会長  <b>ステファニー A. アーチック</b>      &lt;米国ペンシルバニア州&gt;</p>	
<h2>第1721回例会 令和6年11月26日 (火)</h2>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 我等の生業 鈴木一比古ソングリーダー



■ 会長談話 熊谷健会長



今年の春頃に、ある銀行の紹介で、相続財産の承継業務（亡くなった方から相続人へ預金や不動産を移転する業務）を受けまして、最近、業務が完了しました。依頼者は名古屋の方で、電話で数回話をさせていただきという依頼者でした。仕事が終わったので、私の報酬を差し引いて、相続預金をその方の口座に振り込むということで、完了の電話を入れ、お礼の言葉をいただき、それで終わりと思っていました。

その翌々日頃、その依頼者、井口さんと言いますが、その方から宅急便で本が3冊送られてきました。謹呈と書かれ出版社から直接届けられました。

今までにも、そのようなことがなかった訳ではないので、その感想とお礼の手紙を出さなければと少々気が減りましたが、その1冊を読みだして、内容がすごく面白かったので、今日はその話をしようと思います。

本の題名は「誰も老人を経験していない。」「老いという贈り物」「老いを見るまなざし」という3冊です。名古屋の風媒社（ふうばいしゃ）という出版社から出版されているのですが、井口さんという人は、1943年伊那市生まれ、名古屋大学医学部付属病院長を経て、現在は名古屋大学名誉教授、愛知淑徳大学教授、日本老年学会会長などの要職を務めていて、その傍らエッセイを書いている有名なお医者さんだということが分かりました。

そしてこの本は、老人としての自分の経験や失敗談を、滑稽に、そして時にはしみじみと描き、とにかく面白いのです。

例えば、特別養護老人ホームの理事として理事会に出席するためにそのホームへ訪れるのですが、少し早く来すぎてしまいます。

（ここから本を引用しますが、）

「会議室に入るには早すぎると思ったので、空いていたソファに腰を下ろして、ホームの入居者たちを眺めることにした。

理事長が目の前の通路を通った。周囲を見回しながら悠然と歩いて行った。

私は理事会に出席するため背広を着ていた。

背広を着た品のいい老人は私一人で、老人施設の患者たちの中では異色性を醸し出しているはずであり、私に気づくはずだと思っていた。

しかし、部屋全体を見回した理事長の視線は私を横切ったが「イグチ先生」だと気づかなかった。  
(その後) 会議に出席する予定の顔馴染みの理事たちが通過した。  
周囲を見ながら歩いていたので、私も視界に入っていたはずであるが「ア！イグチ先生」とは言わなかった。  
10分間、腰かけていたが、私に気づく理事も職員もいなかった。  
大学の構内であればきっと私に気づくはずだ。そう思って、思い当たった。  
私は、老人施設の患者風景に溶け込んでいて何の違和感もなかったのだ。  
私は、老人施設の患者に相応しい老人であったのだ。」

どうです？面白いけど哀しいでしょ？ この本には、私たちもどこかで経験したような話がたくさん載っていて、老いということを否応なく実感してしまうそんな素敵な本でした。  
しばらく、この本の話をして、会長談話の時間稼ぎをしたいと思います。  
今日は、ここまで。

## ■ ゲスト・ビジター紹介

### ・ゲスト紹介 熊谷健会長

本日のゲスト、南信工営株式会社 代表取締役社長 笹川美郎様をご紹介します。詳しい紹介は市川直前会長から致しますが、昨年まで我がクラブに在籍していました笹川星哉会員のお父様であります。

市川直前会長から、予てより社長交代に伴い現社長を我がクラブに入会させたい意向を聞いておりました。市川さんは現在直前会長という立場にあり、今年度いっぱいには会員として在籍していただかなければならないので、その間、現社長の笹川様にゲストとして、我がクラブの事業や例会に参加していただき、新年度（来年7月）から正会員として入会していただく予定であります。その間、立場はゲスト扱いですが、実質的には会員と同様に参加していただく予定です。なお、市川さんには、新年度以降も、引き続き会員でいただくよう折衝中であります。

### ・ゲスト紹介 市川修次直前会長

それでは紹介させていただきます。笹川美郎さん、40年間一緒に仕事をさせて頂いてきました。私が三代目で、現在四代目の南信工営の社長を務めております。私共の初代社長が小澤一さんでこのクラブの会員でもあり、会社三人目のクラブ会員となります。二年前に社長を引き継ぎまして笹川社長に代りましたら業績もぐっと上がりまして複雑な想いもありましたが、もっと早く引き継いでいたらと後悔もしております。仕事面でも力を発揮しておりますが、何よりも感心する事は息子さんの星哉君が「尊敬するのは父親」と公言しておられて、なかなか今の時代に息子から尊敬される父親は少ないのではないかと感じております。



ただ一つ劣っている面がありまして、それは私よりかなり回数多く行っていると思うゴルフで、一度も百を切ったという言葉聞いたことが無く、聞くたびに 108 とか 105 とか、それでもめげずに行くと言う、中央ロータリークラブのゴルフ部には丁度良い腕前ではないかと思えます。そういった打たれ強い面を持っておりますので入会した折には早い段階から重荷を持たせて頂ければと思います。宜しくお願い致します。

### ・ご挨拶 南信工営株式会社 代表取締役社長 笹川美郎様



南信工営株式会社の笹川と申します。2年前の6月に就任しまして3年目、4代目の社長であります。弊社顧問の市川がおりますので会社の事業につきましてはご存じの方が多くと思いますが、西春近に本社を置いて外装工事を請け負っている会社でございます。丁度、弊社となりで衛生センターの工事が始まりましたので、防水・吹付・サッシなどの工事を受注すべく営業しているところです。

“人を育てて地域社会に貢献しよう”というのが経営理念ですので、この会の活動を通して勉強させてい

ただき地域のお役に立てばと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

私の次男の笹川星哉がV C長野トライデンツの時に、皆様には大変お世話になりました。お礼申し上げます。

## ■ ニコニコボックス

- ◆熊谷健 南信工営株式会社社長の笹川様、ようこそ例会にお越し下さいました。伊那中央ロータリークラブの雰囲気味わって下さい。これからもよろしくお願い致します。
- ◆小椋文成 笹川様、本日はようこそお越し下さいました。今後もよろしくお願い致します。本日、宮澤委員長がインフルエンザで欠席のためクラブフォーラムを行います。よろしくお願い致します。
- ◆伊藤かおり 本日は笹川様ようこそお越し下さいました。これからお世話になります。
- ◆市川修次 今日、入会予定の南信工営 笹川社長が出席しています。会員の皆様には今後とも宜しくお願い致します。
- ◆伊澤和男 皆様、米山へのご協力ありがとうございました。今後も協力お願いします！
- ◆原一馬 中央RCのゴルフになかなか出られないので、伊那RCとの合同コンペには何とか参加するように努めています。11/4の合同コンペでは、今年のベストスコアで中央RCの勝利に久々に貢献できました。

## ■ 幹事報告

### 小椋文成幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

## ■ 委員会報告

### ・11月24日（日）地区職業奉仕セミナーの報告 小椋文成幹事



冒頭、白鳥ガバナーターと品田職業奉仕委員会委員長より挨拶がありました。

まず武田育夫長野県教育委員会委員長より「長野県教育の課題と今後に向けて」という内容で講演がありました。私自身、以前から信州教育というものに深い疑問がありましたが、武田教育委員長のお話を聞いてさらに疑問を感じる部分がありました。詳しい内容はアーカイブが上がった際にご自身で見たいと思いますが、少しだけ内容をお話しますと、信州教育という言葉は明治 30 年代に使われだしたそうです。その当時寺子屋の数が長野県は全国 1 位で断トツに高かったそうです。幕末には 1341 か所あり、その多くが教師を農民が務めていたことも特徴とのことでした。また、明治 9 年就学率 63% ということで、こちらも全国 1 位。明治 30 年代後半には男女とも 90% を超えていたそうです。学資総計額という今でいう教育予算も明治 18 年の数字では全国 1 位で小学校教員の平均月収も東京を抜いて全国 1 位だったということなどから教育熱心な県「教育県 長野」ということにつながったようです。

ただ、実際には国が進めていた「富国強兵」「近代化」の号令の下中央集権的・画一的に進められていた教育制度に対して、現場の考えを尊重し自由な教育を進めたいという思いや教育に権力的に介入しないという考えのもと独自のスタイルを持っていた教育を信州教育と呼ぶという話でした。

また、戦後教育は大量生産型教育による人材育成を進める中で正しい答えに早く、ミスなくたどり着き、多くの知識を正確に記憶することを重視し、まじめ・頑張る・忍耐・勤勉を大切にしてきた中で、教育のことは学校に任せるという家庭の考え方も加えて戦後の高度成長を支える人材を輩出してきましたが、現在は限界を迎えている状況だそうです。これは人口の多い中国やインドが同じように行ってきた場合に、日本は教育の面でも太刀打ちができないということもあるようです。

現在は、子どもたちの多様化・生徒の学習意欲の低下・長時間勤務による教師の疲弊・情報化の加速度的

な進展への対応の遅れ・緊急事態に強い学校体制への整備の遅れなど多くの問題を抱えているとのことでした。

長野県教育委員会が目指すものということで「学校が地域づくりの核となることが求められている」時代なので、それに対応できるように、従来3年程度で移動させていた教員を地域のことを深く知るために、もっとスパンを長くして地域のことが分かるようにしたり、教師の出身地に赴任をさせるようにするなど取り組み、その地域によって抱える問題・課題が違うので、それに対応した教育を進めているようです。

パネルディスカッションについては、正直何を求めているかがわからず、途中で退席してしまい最後まで確認しておりません。

■ 出席報告 会員数46名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者25名 事前メイク1名  
出席率65.00% 前回出席率 修正なし

### ■ クラブフォーラム 「ロータリー財団委員会」 小椋文成幹事

宮澤委員長体調不良により欠席のため、小椋幹事より地区補助金事業「未来へとつなげる森林づくり」の報告書をもとに今年度の事業内容などを説明する。

続いて、会員より本年度事業の反省や次年度以降の地区補助金事業への取組について意見を出してもらう。

- ・当日行ってみて感じたことだが、これまでと違い地区への植樹という事だったので、当日植樹作業をして終わりという事ではなく事前の段階も含めてその地区の方たちとの交流があるとよかった。
- ・子どもたちに継続的に関わってもらえる工夫があるといい。
- ・いい体験ができた。
- ・なかなか自分一人だとできないと思うので、自分たちが植樹した木の成長を確認することができるように5年後、10年後にみんなで成長を確認することができるような取り組みがあるといいと思う。
- ・場所についてだが、実際に市有林に植樹をするスペースがなかったのか？  
→今年も今までと同様に、まずは市へ相談をした。その際に植樹をするスペースがないので、これまで植樹してもらった森林の整備をしてもらったらどうかと提案をいただいたが、継続的に植樹をしていくことを優先したこともあり、他の場所への植樹を検討していった。
- ・今回の地区への植樹はどのように決めたのか？  
→会員の平澤照雄さんに相談したところ、ちょうど森林整備をしている地区があるということで、これまでの場所からも近いこともあり決定した。
- ・これまでの市有林には「伊那中央ロータリークラブの森」という看板も設置してもらっているので、来年度以降はもう一度市有林への植樹も検討してもらいたい。
- ・今回の植樹した樹種はどのように決めたのか？  
→樹種の決定は平澤照雄会員にアドバイスをいただいた。地区の森林状況を考えて決定をしていったが、将来価値のある森林になるようにとの考えも取り入れた。

会員に意見をいただいたのちに熊谷会長から次年度以降にむけて発言していただきフォーラムを終了した。

■ 点 鐘 13:30

#### 次回例会

12月3日(火) 点鐘/12:30 場所/海老屋料理店  
・年次総会(次期役員理事発表・会計中間報告)